

《 I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標 》

1 【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

学校法人行吉学園神戸女子短期大学の歴史は、昭和 15 年に行吉國晴・哉女夫妻が創設した神戸新装女学院に遡る。昭和 24 年に短期大学制度が制定され、昭和 25 年に神戸女子短期大学を開設した。終戦後、日本人の国民生活が向上しない中で、女子教育の必要性を痛感したことが短期大学の創設につながった。

本学の「建学の精神」は、「民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成するにある。そのためには、人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成に力をつくすにある」である。

この「建学の精神」に基づき、以下の「教育綱領」を定めた。

- ・学術の研究を通して、人間社会に対する広い視野と深い洞察とを身につけ、識見高く、心情豊かな女性を育てる。
- ・個性の伸長をはかり、社会に貢献しうる人材を育てる。
- ・勤労を愛し、義務と責任を重んじ、自律的に行動する態度を養う。
- ・宗教的情操を培い、謙虚にして、愛情深く、よく苦難に耐え、常に信念に生きる女性を育てる。
- ・明朗にして礼節あり、健康にして柔軟な心身の持ち主となり、よく世代を導きうる女性を育てる。

この制定にあたって創立者行吉哉女は、大学一般の公共的な目的に加えて、私学としての独自性を明らかにすることに腐心し、女子大学として女性の特性を活かす教育が実現できるよう努力したことが、著書『敬と愛—ひたすらの道』に記されている。

学校法人行吉学園は、昭和 41 年に神戸女子大学、昭和 59 年に神戸女子大学大学院を開設したが、創設時の「建学の精神」及び「教育綱領」を継承し、爾来世界に開かれた国際都市神戸に立地する学園として、学問的に高い識見を身に付けた心情豊かな女性として自立し、人類社会の発展に貢献しようとする人材の育成に努めてきた。

神戸女子短期大学及び神戸女子大学は、21 世紀の新たな歩みを始めたことの自覚に基づき、また今回の第三者評価をよい契機として、創設時の理念・目的・教育目標を再確認すると共に、私立女子大学固有の使命と社会的・地域的・時代的役割を認識して、新たな教育目標を「神戸女子短期大学は、建学の精神に基づき、自立心に富み、対話力と創造性にすぐれ、人類社会の発展に貢献する女性を育てる」と再定義した。

◆添付資料 1 「2009 学生便覧 CAMPUS GUIDE」(pp. 4-5) 参照。

◆参考資料 1 「行吉学園六十周年記念史誌 神戸女子大学・神戸女子短期大学・神戸女子大学 瀬戸短期大学」参照。

2 「行吉哉女著『敬と愛—ひたすらの道』」参照。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

建学の精神は「学生便覧」と本学のホームページに掲載している。しかし、建学の精神の制定時から大学を取り巻く情勢が大きく変化したことを考慮し、その内容を分かり易く、また覚え易い表現にする必要性から、平成19年度に、建学の精神に基づいた新たな理念・目的・教育目標を表す3つの標語（モットー）として「自立心・対話力・創造性」を掲げることにした。

3つの標語は、学長や理事長が、入学式、卒業式で学園及び短期大学の理念・目的・教育の目標を表すものとして式辞に必ず盛り込んでいる。また新年度の各学科のオリエンテーションやホームルームにおいて、教育目標を表す3つの標語についての印刷物を配付してクラス担任等が説明を行っている。更に、学生に配付する印刷物（学生便覧、シラバス、オリエンテーション冊子等）にも3つの標語を掲載するよう配慮している。

教員に対しては、周年記念行事、新年の会、教授会、委員会等において大学の理念・目的・教育目標を学長が説明し、職員に対しては夏季休業期間中の職員研修会で理事長及び各部門の責任者が説明し周知を図っている。

学外に対しては、ホームページに3つの標語を掲載しており、「大学案内」「求人のための大学案内」等、受験生向けと社会一般の人々に配布する印刷物に掲載している。

◆添付資料1（再掲）「2009 学生便覧 CAMPUS GUIDE」（表紙ウラ，pp. 4-5）参照。

2 「2009 授業計画書・シラバス」（表紙ウラ）参照。

3 「神戸女子大学・神戸女子短期大学 Guide Book 2009」（p. 160）参照。

◆参考資料3 「オリエンテーションのしおり」参照。

4 「神戸女子短期大学 求人のための大学のご案内」（pp. 1-2）参照。

2【教育目的、教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います（例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

<総合生活学科>

総合生活学科は、生活を総合的・実践的に捉えるために家政系諸学問の特性を活かすという認識に立ち、平成8年に服装科と家政科一般コースを統合して発足した。学科の教育目標は、生活全般に関わる分野について、3つのグループ「デザイン」「健康」「情報・ビジネス」を中心に総合的・統一的・学際的・専門的に研究することにある。教育目的は、生活全般にわたる知識や技術の習得に励み、広い視野と深い洞察力を身に付けた心情豊かで、社会に有為な自立した女性の育成をすることにある。

<食物栄養学科>

食物栄養学科は、平成8年度に家政科の栄養士養成課程を改組し独立させた学科であり、基礎医学から病理面まで広範な内容を履修し、食生活の改善に貢献し得る栄養士養成を教育目的とした。その後、高齢化に対応した健康の在り方や生活習慣病の予防など社会の急激な変化に伴い、平成10年度に「人間性豊かな食と健康のクリエイション」を目標に掲げた。そこでは基礎知識の習得と豊かな創造性を伸ばし、実験・実習を重視した教育課程によって、多様化する業務に対応できる栄養士の養成を教育目的に加えた。平成13年度からは、栄養士制度の改革による栄養士と管理栄養士の業務の見直しに伴って予防医学に重点を置き、給食の運営管理を中心とする病気にならないための健康・体力の維持・向上を目指す栄養士の養成を教育目的に追加した。平成17年度には、「食育」の理念を取り入れて教育課程を改善した。現在は、学科のアドミッション・ポリシーとして、①将来への目的意識が高く、何事にもチャレンジして実社会の即戦力として活躍したい人を育てる、②食のスペシャリストとして幅広い知識や教養、技術を身に付け、社会に貢献したい人を育てる、③「食育」の研究に関心をもち、これからの食生活と健康のあり方を追究する人を育てる、の3つを掲げている。

<幼児教育学科>

幼児教育学科は、昭和30年に小学校教諭及び幼稚園教諭の養成を目指して初等教育科として設置され、今日まで時代の要請に応える実践的指導力のある教員を養成してきた。近年、社会は大きな変動期にあり、変化のスピードも従来になく速くなっている。この時代においては、子どもたち一人ひとりが自立した個人として、心豊かに、たくましく生き抜いていく力を培うことが重要であり、教育や保育を通してその育成を図る必要性が生じている。本学科では、こうした時代の要請を踏まえ、次世代の育成に必要な幅広い知識と教養、高い専門性を身に付けた実践的指導力のある教員と保育士の養成を目的としている。

教育目標としては、①教員や保育士の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感などの「教育や保育に対する強い情熱」をもった人材の育成、②子ども理解力、指導力、集団づくりの力、教材づくりの力や教材解釈の力などの「教育や保育の専門家としての力量」をもった人材の育成、③豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質、先輩・同僚・後輩と共に協働の汗を流すことのできる資質能力などの「総合的な人間力」をもった人材の育成、を掲げている。

<専攻科保育専攻>

専攻科保育専攻では、初等教育学科（現在の幼児教育学科）における2年間の教職課程で子ども理解を深め保育者としての基礎的資質を養った学生が、乳幼児保育に関する更に高い専門性を養うことを目的としている。人格の陶冶と乳幼児保育の深い専門知識を修得して、保護者や地域社会と共に「子どもたちの育ち」を支え、「保育」を取り巻く環境の変化に対応できる保育士養成を目指している。

教育目標は、①幼児教育の5領域と本学の栄養士養成課程である食物栄養学科が連携した「食育」を特色とした保育士の養成、②地域交流プログラムを積極的に取り入れた実践力のある保育士の養成、③小学校教育の素養をもつ幼稚園教諭二種免許状と保育士

資格を併せもつ保育士の養成、である。卒業後、保育士及び幼稚園教諭として社会に貢献できる教育的資質の高い人材の養成を行っている。

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在ほどのような方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

- 1) 新入生には、入学当初の2日間のオリエンテーションで学科長及び学科教員が学科の教育目的や教育目標について詳しく説明している。まず全体説明として学生便覧とパワーポイントによる解説を行い、それと関連づけて学科の概要と特色、学修の取組み、履修方法、学生生活上の注意や支援体制等の説明を加えて周知を図っている。
- 2) 更に新入生には、オリエンテーション後のホームルームにおいて、クラス担任が教育目的や教育目標及び学生便覧やガイダンス資料の補足説明を行い、学生からの質問を受けながら、クラス担任・副担任とのコミュニケーションによる理解を図っている。
- 3) 2年次生には、年度当初の学科オリエンテーションとホームルームの時間に、特に履修指導と絡めながらクラス担任・副担任が学科の教育目的や教育目標について説明し、卒業後の進路選択に関係づけて周知を図るようにしている。
- 4) 11月の学園祭や2月の就職ガイダンスなど、学科の卒業生との交流会における講話の中で教育目標や教育内容に触れるよう依頼して、在学生への周知を行っている。
- 5) 学外向けには、毎年発行する大学案内とオープンキャンパスで配付する資料の中で学科の教育目的や教育目標に関する内容を記述している。
- 6) 本学のホームページにおいて、学科の目的や概要と特色を学外に公表している。
 - ◆添付資料1(再掲)「2009 学生便覧 CAMPUS GUIDE」(pp. 54-55, 69-70, 82-83, 92) 参照。
 - ◆参考資料5「オープンキャンパス配付資料」参照。

3【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

建学の精神や教育理念の解釈また教育目的や教育目標の点検は、周年記念行事や学長着任等の機会を捉えて、学園の将来を展望しながら確実にやっている。その結果、「民主的で文化的な国家を建設して世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性」を育成するという建学の精神は今日なおおさかも揺るいでいない。他大学では男女共学を志向する風潮もあるが、本学では女性教育の充実を学園の特色とすることを教職員が共通理解している。近年では平成19年度に、学生が建学の精神や教育理念を理解しやすくするため、目指す人間像を「自立心、対話力、創造性」と定めた。これを「学生便覧」に記載し、年度当初のオリエンテーション等を捉えて周知を図っている。建学の精神や教育綱領に関する自己点検・評価は、全学的議論を経つつ理事長、学長のリーダーシップに委ねるところが大きく、今後も部科長会、教授会等で活発な意見を交わしながら、評議員会、常任理事会、理事会で継続的に審議していきたいと考えている。

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

本学が掲げる、学生が求める大学、地域が求める大学、時代が求める大学として、自立心に富み、対話力と創造性に優れ、人類社会の発展に貢献する女性を育成するという教育目標を達成するためには、社会の要請や学生の質の変化等に敏感に反応し、学術研究や文化の発展にも対応できる体制を整えておく必要がある。そのため建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検は、行吉学園自己点検・評価推進委員会また神戸女子短期大学と神戸女子大学の自己点検・評価委員会が恒常的に行い、短期大学では学科会議と部科長会において新しい教育計画立案の際に建学の精神や教育理念に立ち戻った議論をしている。その内容は教授会で審議し、常任理事会で検討後に理事会に報告し承認を得ている。それらを学内で周知し、本学の改善・改革に結びつけるために、教職員が参加する各種会合や全学生で組織する学友会総会等を活用している。

4 【特記事項について】

(1) この《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

本学教育の基底となる行吉國晴・哉女夫妻の建学の精神・教育理念を顕彰するため、学園発祥の地である神戸市中央区中山手通の三宮キャンパスに「行吉学園記念室」を設置し、建学の精神・教育綱領及び学園創設以来の歴史を「草創期」「醸成期」「震災から復興、そして未来へ」に分けて展示している。学生や教職員また同窓生は授業や学園行事の際に、学祖行吉國晴・哉女夫妻の教育にかける情熱と思想また教育実践の数々を感受することができる。ポートアイランドキャンパスには行吉國晴・哉女夫妻の胸像が鎮座する学祖ロビーを設け、建学の精神・教育理念を敷衍する語らいの場として活用している。毎年7月の西瓜祭は、学祖行吉國晴・哉女夫妻が地方出身の多い本学学生が親元で暮らす時と同じように、季節の味覚を楽しめるようにとの学生一人ひとりを思う心から生まれた行事であり、学長や学生部長が学祖の教育情熱や理念を学生に訓辞している。また建学の精神・教育理念は本学教員への研究助成制度にも活かされ、行吉学園研究助成費規程第3条(7)には「建学の精神を具現化するため」の項を設けて運用し、学祖の建学の精神・教育の理念が教育研究実践において実体化されるよう支援体制を整えている。

◆参考資料6「行吉学園研究助成費規程」参照。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

該当なし。